

校内研修計画

山梨市立山梨小学校

1 学校課題

本校の児童の学力を見てみると、全国学力学習状況調査では全国の平均正答率をやや上回る結果であったが、県学力把握調査の結果を合わせてみると、十分とはいえず、基礎・基本の力が定着されていない状況にある。全国学力学習状況調査児童質問紙では、児童の学習・生活状況や児童の意欲について、ほぼ全ての項目で全国よりもよいか、ほぼ同じ傾向であった。家庭学習をみると、宿題や自主学習に取り組む児童が多く見られてきてはいるが個人差があり、また、取り組む課題の内容やバランスなど、課題がある。これらから、基礎・基本の徹底をはじめとする確かな学力の定着を目指した日常的な取り組み、授業改善の工夫の必要性を感じる。

2 研究主題

確かな学力の定着・向上を目指した指導の工夫

～基礎学力の確実な定着を図るための指導のあり方～

3 主題設定の理由

本校では、「確かな学力」に目を向けた研究に取り組んできており、平成26年度からは、山梨市学力向上推進委員会の考えを元に、筋道をたてて考える力記述して説明する力、判断する力を身につけるための手だてとして活用学習に取り組んできた。各学年で活用学習を実施した授業を行ったことで、児童の考える姿や進んで学習する姿が日常的に見られるようになり、子供同士の学び合いの場に変容があらわれてきた。さらに確かな学力を支える手だてとして学級力向上の取り組みも研究してきた。よりよい学級にしようとして児童が自分たちで考え取り組むことで、学級をよりよい方向に向けることができた。学習環境が整えられてきたことで安心して授業中に友達と考えを交流することができ、それは活用学習の場でも生かされ、よく考える姿勢が学力向上につながっていると考えられる。

そして一昨年度は、これまでの活用学習と学級力向上をもとにした言語活動の研究に、日常的な取り組みとして、山梨県教育委員会で取り組みを進めている「やまなしスタンダード」を意識した授業実践を行うことを取り入れてきた。教職員間でも日々の授業を見つめ直すなど授業への意識が高まった。そして、さらなる定着を目指すため、昨年度は「やまなしスタンダード」に焦点をあて、「やまなしスタンダード」の視点を明確にするとともに、基礎学力の確実な定着を図った授業づくり・授業改善を進め、児童の確かな学力の定着・向上を目指し研究を進めてきた。本年度は、それらを継続し、授業の質的向上による確かな学力の育成、家庭学習定着の推進等に取り組む、昨年度の研究を深め、基礎学力の確実な定着を図っていきたい。

4 研究の具体的内容と方法

① 児童の実態把握

- ・「全国学力学習状況調査」「県学力把握調査」「NRT」結果の分析と対策活用
- ・NRT、Q-Uを活用しての児童の実態把握

② 授業研究・授業実践

- ・授業改善に向け授業についての実態調査
- ・「やまなしスタンダード」学習会
- ・基礎学力の確実な定着を図るための授業実践・実践交流
- ・家庭学習と連動した授業の工夫

③ 主体的な家庭学習の習慣化

- ・「家庭学習の手引き」の見直し（系統性）
- ・授業と連動した宿題の取り組み
- ・家庭学習の定着を図る「自主学習ノート」の取り組み

・保護者への啓発

年間校内研修計画

島田 直美

テーマ	研究内容	教科	担当	学年	時期	TC要請
確かな学力の定着・定着向上を図るための指導の工夫	研究主題・仮説・内容・方法・計画等		研究主任		4月	
	研究計画・研究組織・授業研究について		研究主任		4月	
	NRT分析		各担任		5月	
	学習会		研究主任		5月	○
	山梨県学力把握調査結果考察と今後の指導について		教務主任, 研究主任		6月	
	実践交流 各ブロックの研究		ブロック長		7月	
	教育課程環流学習会 各ブロックの研究		教科主任, 研究主任 ブロック長		8月	
	全国学力学習状況調査結果考察と今後の指導 各ブロックの研究		研究主任, 教務主任 ブロック長, 授業者		9月	
	実践交流 各ブロックの研究		研究主任, ブロック長, 授業者		9月	
	授業案提案		研究主任, ブロック長, 授業者		10月	
	授業研究会①	算数	研究主任, ブロック長, 授業者	4年	10月	○
	各ブロックの研究		ブロック長 授業者		10月	
	授業案提案		研究主任, ブロック長, 授業者		10月	
	授業研究会②	算数	研究主任, ブロック長, 授業者	3年	11月	○
実践交流 各ブロックの研究のまとめ		ブロック長		1月		
研究のまとめと次年度の方向性について		研究主任		2月		